

能力評価実施の建築大工8団体、全建総連の賃対部・住対部・技対部等で議論された
「建築大工」5団体がレベル別年収を議論、で合意
 国交省は各団体へ6月末に職種ごとの数値公表を要請

◆各職種団体で6月公表を要請

CCUSニュース第50、54号に続き、CCUSを利用したレベル別年収指標の策定の動きを紹介します。

国土交通省は「レベルに応じた賃金の支払いの実効性を担保するため」、各職の専門工事業団体である能力評価実施団体に対して、職種ごとのレベル別目標年収額について、「2021年度中の実現を目指すことが出来る額」を示すよう求め、2020年6月末には「目標年収額の公表(数値公表)」の予定です。

◆建築大工 レベル3(入職3年300万円以上を

「建築大工」職種は全建総連が作成したレベル別目標賃金年収(たたき台)をもとに、建築大工の能力評価を行う8団体や、全建総連内部の賃金・住宅・技術対策の各部会とCCUS対策委員会で議論されてきました。

たたき台は、全建総連が関わる各種検討会等で検討されてきた賃金指標と、全産業平均の年収をもとに算出され、「入職3年目でレベル2に到達した若年技能者」を300～350万円以上、レベル3を600～650万円以上、レベル4を700～750万円以上とされています。

そして、厚労省「毎勤統計調査」「賃金構造基本統計」、国税庁「民間給与実態調査」、国交省「設計労務単価」や全建総連「賃金実態調査」をもとに議論され、大きな乖離がなく妥当と判断されてきました。

◆建築大工の賃金指標は5団体が合意

建築大工8団体がたたき台をもとに協議し、5団体(JBN,全建総連、住活協、全建連、ログ協)が合意し、3月末に策定に取り組むことを国交省に表明しました。しかし3団体(2×4協会、プレ協、木住協)は、「元請がレベル別目標年収額を提示することはその金額を保証する意味合いが強い」「自社の評価基準で賃金を設定しているため整合がとれない」などの意見があり、合意が得られていません。

◆建築大工の賃金指標の6月公表めざして

全建総連は、「処遇改善に向けた国交省の政策に協力する」「建設業の象徴的な職種である建築大工で取り組み表明の態度が示せない」ようなことはしないという立場から、議論を進めることは難しいとしている3団体にも、議論への参加や情報提供を行い、一つでも多くの団体からの合意を得て、設定額の公表方法(前提条件、対象条件)等も協議し、建築大工の能力評価団体全体の目標年収を示せるようにしたいとしています。[賃対]

全木協における建築大工のレベル別賃金の導入(例)

全木協における応急仮設木造住宅建設時の建築大工の日額賃金については、建設キャリアアップシステムの建築大工の能力評価基準(レベル分け)を適用する。レベル2の日額賃金(交通費、宿泊費を除く)は、当該年度の建築大工の公共工事設計労務単価の最高値程度とし、レベルごとに一定額の減算加算措置を講じる。適用時期は2021年4月からとする。《参考》2016年の熊本地震からは一律26,000円としている。

	現行	新規 (2021年4月適用)	備考
レベル1	26,000円	23,000円	当該年度の公共工事設計労務単価の最高値程度をレベル2に適用し、レベルごとに3,000円を減算・加算
レベル2		26,000円	
レベル3		29,000円	
レベル4		32,000円	
賃金差	0円	3,000円	

CCUS本部が業務再開

4月9日から新型コロナウイルス感染対策のため一部業務を停止していたCCUSコールセンター及び申請受付業務の委託事業者が業務を再開しました(振興基金のHP参照)。

ただし、新型コロナウイルス対策「緊急事態宣言」の発令を受け、業務運営体制が縮小され、手続きが全体として遅延が想定されます。

なお、CCUS事業本部のHPでは認定登録機関は「引き続き業務を停止します」となっていますが、システムは稼働しており、技能者・事業者の登録入力ができます。

また、就業履歴の蓄積(現場運用)は通常通り稼働されています。



CCUS登録、東京土建が全建総連では最多に

全建総連関係の申請受付・登録状況と窓口開設状況は、次の通り(2019年度末、全建総連公表数値、東京土建の各支部報告による登録状況はCCUSニュース第61号参照)。

①申請受付・登録状況(2019年度)

3月までの1年間の受付・登録状況は次の通り(2019年4月～2020年3月)。

技能者新規 5,668(窓口1,334、認定登録4,334)
 事業者新規 2,250(窓口444、認定登録1,806)
 新規登録計 6,722(窓口4,729、認定登録1,993)

②申請受付・登録の多い組合の状況

1：東京土建	技能者登録	1,067
	事業者登録	390
	計	1,457
2：埼玉土建	技能者登録	974
	事業者登録	358
	計	1,332

3：首都圏建設工カ	技能者登録	734
	事業者登録	274
	計	1,008

③県連・組合のWeb公開窓口開設状況

認定登録機関	164(設置済175)
受付窓口	74(同77)
窓口合計	238(同252)


④公開済窓口数の多い組合の開設状況


1：神奈川県連	認定登録機関	34(同34)
	受付窓口	12(同12)
	窓口合計	46(同46)
2：埼玉土建(認定登録機関)	33(同33)	
3：建設埼玉(受付窓口)	29(同29)	
4：千葉土建(認定登録機関)	18(同18)	
5：首都圏建設工カ(認定登録機関)	15(同15)	
6：東京土建(認定登録機関)	13(同21)	

12月以降、登録は急速に伸長し、足立、江戸川、練馬支部など先進的に開設いただいた支部の奮闘があり、東京土建が全建総連の中で最大の登録件数となりました。

組合員外の申請で加入に結び付けた経験が生まれ、担当者の努力で受付時のチェックの効率化、書記局輪番制での対応、本支部の連携した取り組み結果の到達点です。


初年度技能者登録目標100万人に対し3月末22万人で、これからが本番という状況です(状況詳細次号)。全支部が認定登録機関となり、窓口の存在を一般に認知していき、条件のある支部は看板等の設置、ホームページなどで掲示するなど、登録を推進します。





建設キャリアアップシステムの登録を!

建設キャリアアップシステムは、技能者の技能と経験を業界横断的に蓄積し、見える化する仕組みです。このシステムを活用し、技能者一人ひとりの技能・経験を客観的に評価し、4段階のレベル分けを行う能力評価制度についても、処遇改善につながる取組として建設業界全体で進められています。



レベル1 初級技能者 (見習い)

レベル2 中堅技能者 (一人前の技能者)

レベル3 職長として現場に従事できる技能者

レベル4 高度なマネジメント能力を有する技能者 (登録基幹技能者等)

レベルに応じた処遇を実現へ